

吉木校区コミュニティ運営協議会（協議会）の役員を務め、早いもので9年が過ぎようとしています。参加のきっかけは、高倉区長の大役を仰せつかり、自動的に協議会のメンバーに加わることになったからです。

いわゆる「充て職」と言われるものです。充て職が悪いわけではありませんが、区長の役目を果たすだけでも大変なのに、協議会の役員まで担うことは、とても難しいと当初は思っていました。そもそも協議会は何を目的に、どのようにして発足したかも知りませんで



### 足跡を辿り未来へ継げる

会長 波田 幸正

したので、詳しく調べてみました。

岡垣町では、第4次総合計画の中で、住民自治の確立を目指すため、新しい地域コミュニティ形成の推進を掲げています。その取り組みの中で、小学校区を単位とした協議会を設立。これに伴い、吉木地区では地域づくり計画が策定され、4つの基本方針を柱にして、組織体制が整備されました。この地域づくり計画の完成度は非常に高く、設立当時の諸先輩のご苦労が伺えました。

吉木校区は11の自治区で構成され、これまでそれぞれ

の区が活発に事業活動を展開して来ましたが、自治区だけでは対応が難しい課題については、協議会を中心に校区単位で効率的に取り組み、効果を最大限発揮しています。例えば「防犯パトロール」や、「河川の一斉清掃」などは特徴的な活動として挙げられます。

岡垣町では人口減少や住民の高齢化が進行しており、校区単位の活動が益々必要となつていきます。しかし現状ではコロナ禍の影響を受け、3年もの間、行動が制限されていることはご承知のとおりです。最近、人々の絆が薄くなってきたと感じませんか。この状況を打開するためには、何を行ったら良いでしょうか。「コロナ禍での地域コミュニティ活動」

フレッシュイレブン

# よしき

いきいきとたのしく

〈 第 39 号 〉  
 令和5年3月25日  
 発行責任者  
 吉木校区コミュニティ  
 運営協議会  
 会長 波田 幸正

おめでとうございます

昨年の10月2日に岡垣サンリーアイで、町政施行60周年の記念式典が開催されました。式典では、町の発展に貢献した個人・団体への記念表彰が行われ、門司町長から表彰状と記念品が贈られました。

吉木校区コミュニティ運営協議会からは「地域の振興に貢献し、その功績顕著な者」として、波田幸正会長並びに田嶋豊一前会長が表彰されました。

をネットで検索してみましたが、これといった秘策は見つかりませんでした。

ただ言えることは、活動を一度中止してしまうとなかなか再開できない。このため、従来の活動を無理のない範囲で継続することが重要だと、私は考えます。幸いにして現段階では以前のように行動制限は発出されていません。中止していた事業の復活を目指して、創意工夫を凝らして参ります。

なお、もうすぐ会長としての任期満了を迎えるため、次年度からは運営委員のひとりとして活躍したいと思っています。

こんな活動をしています

- 安全・安心部会
  - 防犯パトロール
  - 地域防災
  - 子どもの安全見守り
- 環境部会
  - 乳垂川を守り育てる
  - 校区美化活動
  - 環境についての意識涵養
- 健康・福祉部会
  - 健康づくり教室
  - 地域ふれあい
- コミュニケーション部会
  - ふれあいグラウンドゴルフ
  - ふれあいふる里めぐり
- 事務局
  - 広報誌発行
  - 総会等会議の開催
  - 他校区との交流会参加



令和3年12月から「ながら防犯活動」を行っています。  
 誰もが日常生活の中で、気軽に実践できる防犯活動です。何かあれば事案の内容に応じた機関に通報・相談をしてください。  
 皆様、是非、参加お願いいたします。

**つながり、広がる 防犯・防災の輪**  
**安全・安心部会 副部長 御領園 正**

**1 防犯パトロール事業**

令和4年度青パト乗車員  
 新規参加者  
 永嶋みどり 白土 竜一  
 原 伸明 松木 福男  
 松木 郁美 田村 秀之  
 吉田 義信 梶田 剛  
 山口由紀夫 畠中 善樹  
 垣田志津子 花田 誠

(敬称略)

青パトの乗車員の募集  
 ★活動時間  
 火曜日の15時～17時  
 ★活動内容  
 青パト車で吉木校区内を巡回します。  
 随時募集して青パト協力を増やしていきます。



**2 子どもの安全見守り事業**

通学路における見守りを自治区・学校関係者と連携して行っています。  
 子ども110



番の家の、「プレート」「地域看板」の掲示先を募集しています。  
 「児童多し注意」の電柱幕の掲出活動も行っており、今年度すべての幕を更新しました。

**3 防災事業**

10月17日(月)、吉木小学校の火災避難訓練に参加しました。  
 今回は理科室からの出火を想定し、先生の誘導のもと、子ども達は速やかに決められたルートで避難しました。  
 安全・安心部会長以下4名は、避難通路で誘導のサポートを実施。子ども達は集合場所の運動場に揃い、点呼されました。

校長先生は「おさない、走らない、しゃべらない、戻らない、近づかない」のルールを必ず守りましょうと子ども達に呼び掛けました。  
 避難時間の目標タイム5分を大幅に下回り、消防団の方からは「訓練は大変良くできていました」との講評がありました。



新型コロナウイルス感染症拡大により2年間中止を余儀なくされていたイベントを、感染防止対策を講じ次のおり開催しました。

**健康・福祉部会**  
 部長 廣渡 和子

令和5年2月25日(土) 中央公民館で「健康づくり教室」を開催し53人の参加がありました。  
 新水巻病院のリハビリテーション科の加来先生が「腰と膝の痛み」について講演されました。

**コミュニケーション部会**  
 部長 和田 敏子

3月18日(土) 吉木小学校の快適な芝グラウンドを使用し、「第13回ふれあいグラウンドゴルフ大会」を開催しました。  
 当日は50名が各自治区から集い、8チームに分かれて好プレーを繰り広げました。



### 自然と共生する地域づくりを推進

環境部会 部長 筒井 信秋

環境部会では、吉木校区の美しい自然環境に親しみ、次世代に引き継いでいただくために、次の3つの事業を行いました。

#### 1 第12回ホタル祭り

5月28日(土)の19時半から、高倉神社前広場を受付会場として、ホタル鑑賞をメインとしたホタル祭りを実施しました。

3年ぶりの実施であり、密集を避けるため、

開会式や演芸等は行いませんでしたが、コロナ禍以前を大きく上回る約500名もの参加があり、幻想的なホタルの飛翔を楽しんでいただきました。

#### 2 乳垂川一斉清掃

10月23日(日)は、熊野神社を、



3月5日(日)は、龍昌禅寺駐車場を開会式の会場とし(この日は吉木区は独自開催)、上高倉区内から吉木区の高見橋までの乳垂川の一斉清掃を行いました。

10月の実施時には、門司町長が飛び入り参加されました。また、町内に棲息する3種類のホタルの資料を掲示し、環境保全に関する理解を深めていただきました。

参加者の人数は増加しつつあり、校区の皆様の高まりを、大変嬉しく思います。

#### 3 吉木小ビオトープ清掃

11月11日(金)と、2月21日(火)の10時から、吉木小のビオトープの清掃を行いました。

学校から校長・教頭、コミュニティから会長・事務局長・環境部会員等が参加し、不要な水草や枯葉・土砂を取り除きました。

水辺に親しむ優しい児童が多く育つことを願っています。



### みんなのチカラでホタルを守る

事務局長 宗岡 信之

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2年続けて開催が見送られていた校区コミュニティ合同視察研修(役場地域づくり課主催)が、人数を絞り込んで11月17日(木)に行われました。吉木校区からは、会長、副会長並びに事務局長の3名が参加。

視察先は北九州市小倉北区の「北九州市ほたる館」で、学芸員の方からホタルの保護や自然環境保全に関する取り組みなどについて、長時間にわたり説明を受けました。

「北九州市ほたる館」は、建物と野外の実験水路、せせらぎ水路からなります。ホタルの棲む水辺環境についての質疑応答や、ホタルの飼育方法を詳しく学ぶことができ、とても有意義な視察になりました。



### 吉木小に赴任して感じたこと

岡垣町立吉木小学校 校長 中西 靖彦

戸切小学校に3年間、山田小学校に1年間、海老津小学校に5年間在籍し、岡垣町での4校目となる吉木小学校に昨年4月に赴任し、1年が過ぎようとしています。



まず、感じたことは、地域の方々の吉木小学校に対する思いの「熱さ」でした。学校のために、子供たちのためにという愛情の深さを、この1年間でたくさん感じました。コロナ禍で、行事等がかなり削減されていきましたが、地域のさまざまな方々と接する中で、その愛情の深さを突き付けられました。次に、子供たちの「あいさつ」に驚かされました。毎朝、校門付近に立ち、子供たちの登校を迎えているのですが、5メートルほど先から元気なあいさつの声が響いてくるのです。これまでの学校では、すれちがう際や直前であいさつをすることがほとんどだったのですが、吉木っ子は離れていても遠くからあいさつをしてくれます。地域で育まれてきた子供たちの元気で、素直で、

あどけなさかなと思っています。地域の方々の吉木っ子に対する愛情、そしてそれに応える吉木っ子の元気で素直なあいさつ。これらの相乗効果が「吉木校区の財産」なんだなと感じ続けた1年でした。コロナ禍に入り3年が経過しようとしています。この間、感染症拡大防止の点から、学校と地域との連携は少なくなってきました。しかし、これまでの長い間、この校区で育まれてきたものを、「ウィズコロナ」の中で、少しずつ戻していくことも、今後手掛けていく必要があります。学校の敷地内には、ビオトープがあり、通称「ほたる川」が流れる自然豊かな環境があります。コロナ禍の3年間も、地域の方々の協力で、その環境は守られてきています。今後も、校区の豊かな自然、そしてそこで健康やかに育つ吉木っ子の安心と安全が続くよう、地域の方々の協力を仰ぎながら取り組んでいきます。



ビオトープの清掃を終えて

### 校区別懇談会で意見交換

「住民と行政の協働によるまちづくりの推進」をテーマに、小学校区を単位とした校区コミュニティ運営協議会が設立され、15年が経過しました。

#### 課題と向き合う

校区コミュニティの活動は、私たちの生活の中に根付いてきていますが、活動する中で新たな課題も出てきました。特に、高齢化や地域のつながりの希薄化、相互扶助精神の衰退や地域人材を発掘する仕組みが十分でないことなどの理由により、校区コミュニティの運営に参加する「人材の確保」が難しい状況です。

また、校区コミュニティを構成する自治区および各種団体との関係が整理されておらず、類似した事業もあるため、「役割の整理」を行うことが求められています。

#### 地域づくりの輪を見直す

校区が目指す姿とその実現に向けた事業（活動）を共有し、それぞれの連携と協力を考える契機とすることが目的です。

校区コミュニティ運営協議会、自

### 校区別懇談会の構成

#### 第1回

- ・ 校区の現状
- ・ こんな校区を目指そう

#### 第2回

- ・ 校区が目指す姿の共有
- ・ 活動の整理とアイデア
- ・ 必要な活動と連携する活動

治区長、民生委員児童委員協議会、寿会連合会、吉木校区育成会、学校運営協議会、吉木小学校、社会福祉協議会の代表者が一堂に会し、ワークショップ方式により2回にわたって意見交換を行いました。

#### 今後の方向性

主催者の役場地域づくり課が懇談会の結果の分析を進めており、校区コミュニティと関係団体との統合も視野に入れて、来年度も協議は続けられます。

